

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和6年3月25日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4691600110
法人名	有限会社 やわら
事業所名	グループホーム かな 秀棟
所在地	鹿児島県曾於市末吉町南之郷7-1 (電話) 0986-76-3723
自己評価作成日	令和5年2月13日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPO さつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和6年3月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム敷地内は広々としていて日当たりもよく田畑や山々を望みながら静かでゆっくりとした時間の中で過ごすことが出来ています。
季節の行事(花見、ちまき作り、餅つきなど)を大事にしながら一緒に取り組んでいます。
日々の健康管理はもちろんのこと、訪問看護や協力医療機関との連携を密に行っており、いつでも相談できる環境にあります。終末期においてはご家族の要望に寄り添い医療と連携しながらホームでの看取りにも取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは曾於市役所のある市街地にほど近く、コンビニエンスストアやスーパー、医療機関やファミリーレストラン等のある利便性の高い地域に所在しており、また宮崎県境に位置するため都城市までもアクセスしやすい環境にある。
コロナ禍以降、地域行事や学校との交流の機会が少なくなったが、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、高校生による職場体験の受け入れや地域行事である「市民祭」に利用者と職員が一緒に作った作品を展示し、利用者とともに市民祭の会場を見て回る等して楽しむことができた。
また、令和5年度から認知症カフェを再開しており、他のグループホームとも連携を図りながらカフェの運営に取り組み地域住民と触れ合う機会を得ることができた。
ケアプラン作成においては、利用者に日常会話の中から思いや意向を伺うとともに、表情や様子等からも汲み取るほか、家族には来所時に望む暮らしを尋ねケアプランに反映させている。また、毎月のカンファレンスで出された意見や職員の気付きに加え、定期モニタリング評価や主治医、看護師から聞き取った意見や助言も参考にしながらケアプランを作成している。プランは定められた期間や身体状況の変化だけに行うのではなく、家族の思いに変化が生じた場合にも見直しており、必要に応じて現状に即したケアプランに作り直しを行っている。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	事業所理念は4月の職員会議で読み合わせをしている。また掲示物を通じて共有し実践に繋げている。	理念を事務所内の目に付く場所に掲示して意識付を図るとともに、年度初めに理念の読み合わせを行い共有している。理念を実践できるよう職員は日々、利用者の意向に耳を傾けている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議や認知症カフェへの参加等で交流に努めているがコロナ禍の影響もあり薄くなっている。ちまき作りを行った際は地域へ配るなど以前のような取り組みをしていきたい。	サマーボランティアとして高校生による職場体験を受け入れたほか「市民祭」に利用者と職員が一緒に作った作品を展示するなど地域交流につなげられた。また令和5年度より認知症カフェによる交流も再開している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	運営推進会議を通じて認知症の理解や支援の方法を伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進委員会を行っている。入居者の年齢・介護度・施設での取り組み等の報告や、家族代表、行政、地域からの声を周知し反映している。	コロナ禍で書面による会議が続いていたが、令和5年度以降は参集により会議を開催しており、メンバーである家族や民生委員、行政職員等からは、レクに昔遊びを取り入れる案が出されるなど、活発に意見交換が行われサービスに活かしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員会に参加して頂いている。また、運営に必要な相談を電話や窓口に出向く等連携を図っている。	行政職員とは運営推進会議において事業所の取り組みや実情を報告するとともに、介護関係の書類提出時や相談事がある時等に出向き助言を受けている。また行政主催の研修会に参加して意見交換を行う機会もある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を年2回設けている他、身体拘束委員会を3ヶ月に1回実施している。身体拘束廃止について話し合いを行い会議等で周知している。参加出来なかった場合も、会議録にて全職員が周知徹底するように取り組んでいる。	「身体拘束廃止に関する指針」を整備し、3か月毎に身体拘束廃止委員会を開催するほか、研修会を実施して拘束のない暮らしや拘束による弊害について話し合っている。また、センサーマットを使用する場合はケアプランに組み込み、利用者や家族に説明し同意を得るようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回内部研修を行い学ぶ機会を設けている。外部研修にも今後は積極的に参加をしていきたい。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度, 日常生活自立支援事業については、施設内研修を行っている。今後は外部研修にも参加し, 話し合いの場を設けていきたい。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前の面談にて特に料金については詳しく説明している。家族の意向や不安な事など出来るだけ多くの意見を聞き不安解消に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関へ意見箱を設置している。家族が面会に来られた際には、積極的に声を掛けるよう心掛けており、家族の思いを汲み取るよう努めている。利用者の意見は日常会話の中で得ている。	利用者の意見や要望は日常会話から汲み取り、家族からは面会時やタブレットにより把握している。また、家族に毎月のお便りを送付してホームでの様子を報告しているため、お便りを見た感想や意見をもらうことも多くあり運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案は職員会議やカンファレンスで拾い上げている。主任会議等を通し代表に伝え業務改善などへつなげている。	職員の意見は申し送り時や職員会議のほか、日々の会話の中より汲み取っている。移乗が難しいためスライディングシートを購入したり、勤務シフト作成時に休みの希望を出してもらう等、職員の意見や提案を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の実績や取り組みをみて給与などに反映するように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が仕事に意欲が持てるようにコミュニケーションを図りながら個々にあった研修の参加の支援を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	感染状況をふまえ市主催の会や研修に参加し、同業者との交流や意見交換を行いサービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には情報収集を行い本人把握に努めている。また可能な限り面会に出向き本人の状態や本人の思いを確認するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安や要望、思いを傾聴し関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族、本人を取り巻く関係者から情報収集を行い支援方法など検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	馴染みの関係を築き良き理解者になれるように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出の際の支援や面会時、また電話連絡の際、施設での日々の状況を伝え、コミュニケーションに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は、感染予防の為窓越しでの対面や電話、タブレットを活用した面会を実施している。コロナ禍でも家族との時間が少しでもとれるように努めている。	これまでの馴染みの人や場所についてを利用者や家族から詳しく聞き取るほか、入居前のケアマネージャーや医療機関からの情報も参考に把握しており、入居後も友人や知人との関係が途切れないよう関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食卓やソファの配置には特に注意を払い利用者同士がトラブルにならないよう随時媒介して支え合える関係作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も遠慮なく相談して頂くよう常々声かけを行うよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で汲み取るように努めている。また把握に苦慮する場合はカンファレンスや申し送りなどで検討し情報共有に努めている。	利用者の思いや意向については、アセスメントにおいて生活歴等を詳しく聞き取るほか、日常会話や表情、様子等より把握している。把握した内容や気付きはカンファレンス等により職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や他サービス機関の関係者、馴染みの方々より情報収集を行い生活歴等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の健康管理は勿論の事、言動等細かい部分にも注意するように努め異変に気付きやすくしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスは月1回実施、プラン内容の評価及び課題を検討、話し合っている。カンファレンスで出た内容は職員に周知しプランに反映するように努めている。	利用者の意向を日常会話の中から聞き取り、家族からは面会時や電話で意向を尋ねケアプランに反映させている。また毎月のカンファレンスやモニタリング評価のほか、主治医や看護師の意見や助言もケアプランに反映させている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の状態が一目で分かるように個別記録を行っている。特に重要な情報は申し送る欄を設けている。またカンファレンスで介護の見直しを行い情報を共有し計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況変化等に柔軟に対応できるように相談しやすい環境作りに努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出来る限りの地域資源把握に努め、本人らしい暮らしが出来るように努める。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居相談の際に確認を行う等して、本人の病状に応じた医療が受けられるよう支援している。	入居前の受診の経過を把握し、入居後も本人や家族の希望する医療機関を受診できるが、現在は利用者全員が協力医療機関をかかりつけ医として登録しており、訪問診療と訪問看護による健康管理を受けている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師の定期訪問に加え、状態変化時は随時相談を行い、速やかに受診できるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時、洗濯物補充時などには病棟看護師から状態確認するように努めている。GHで出来る治療の場合は訪問看護師と連携を図りながら安心して治療出来るように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に「重度化した場合の対応に係る指針」を用いて事前説明を行うとともに「延命措置に関する意思確認書」を作成している。プラン更新時や終末期の段階と医師が判断した場合などに改めて家族の意向を確認しながら医療との連携を図っている。	「重度化した場合の対応に係る指針」と「延命措置に関する意思確認書」を整備し、入居時に説明して同意署名を取り交わしている。これまでにを行った看取り支援は数多くあり、職員が安心して支援できるよう研修会を実施したり、医師や看護師による協力体制を整備している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時の対応をその都度行っている。今後は施設内研修や外部研修への参加を行い実践力を身につけたい。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間計画の中で昼夜想定避難訓練を消防協力のもと実施している。運営推進会議にて地域との協力体制にも努めている。	年2回のうち1回は消防署立ち合いの下、1回は自主訓練としての災害訓練を実施している。地域住民に訓練への参加を呼びかけるも仕事等により参加は得られなかったが、今後は近隣の消防団の方の協力をお願いしたいと考えている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	羞恥心に配慮し排泄の失敗や食事の食べこぼしの際は声掛け（言葉・声量）に注意を払っている。人格を尊重した対応を心掛けている。	本人の気持ちに配慮できるような接遇やユマニチュード（人間らしさ・やさしさを基本においたケア）等の研修を定期的実施し、入浴後に着る服を選んでもらったり、ポータブルトイレを使わない時は、目に付かないよう部屋の隅に置くなど対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しやすい環境や表情、声掛けを行いながら希望を表して頂いたり自己決定できるような方法を見つけたり努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念でもあるしたい事したくない事を理解し、本人の状態に応じて暮らして頂けるように努めている。無理強いせず、本人のペースに合わせた支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	外部から散髪を依頼している。髪型は本人の希望を伺い決めている。外出時など身だしなみに気配りしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえ等出来る作業を一緒に行っている。季節感を大事に旬の野菜を取り込み献立を作成している。会話の中で好みや味を伺いながら食を楽しみとして感じてもらえるよう取り組んでいる。	献立を決める際は利用者に食べたい物を伺いメニューに反映させている。調理する際は利用者も野菜の下ごしらえを行ったり、お茶パック作りに参加するなど、できることに取り組まれている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取には特に注意を行っており、飲まれない方には甘味をつけたり嗜好品などで対応している。また、毎月1日に体重測定を行い体調管理を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日義歯を消毒したり、うがい難しい利用者様には口腔用シートを使用し口腔内の衛生管理に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の状態に合わせたオムツやパットの使用をカンファレンスで検討している。排泄チェック表を確認しながらトイレの誘導や声掛けを行い失敗に繋がらないようにしている。	排泄チェック表により個々の排泄パターンを把握し、夜間ポータブルトイレを使う方も日中はトイレでの排泄を支援したり、夜間は目を覚まされたタイミングでトイレ誘導やパット交換を行うなど個別の状況に合わせて対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取に心掛け、便秘傾向の方にはオリゴ糖や乳製品などで工夫してなるべく自然排便に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	現在1日おきの入浴であるが、本人の要望や皮膚状態によっては毎日入浴の支援を行って清潔保持に努めている。	隔日毎の入浴を基本としているが、希望があれば連日の入浴も可能であり、入浴後は個々に処方されている軟膏を塗布したり、スポーツ飲料による水分補給にも努めて配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具の調整や空間、照明など環境の設備や入眠前の声掛けに工夫を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は職員が全て行っており、効能や副作用を理解し変化時は速やかに医療機関へ相談を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯量、新聞折りなど本人の力量に合わせ張り合いが持てるようにしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩の要望があれば園外散策を行い気分転換を図ったりしているが、現在、コロナの影響もあり日常的な外出支援の実施は控えている状況である。感染状況を見ながらではあるが、外出の機会を増やしていきたい。3月に花見を検討している。	敷地内に砂利が敷いてあるため自由に散歩することは難しいが、陽当たりのよい場所で食事をしたり、ユニット合同でおやつを食べるなど交流している。コロナ禍以降外出は控えているが、市民祭への参加や初詣を兼ねた花見に出かける等、可能な範囲での外出を支援している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持、自己管理している方はおらず、ご家族の方が金銭管理をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人の希望により電話の支援を随時行っている。家族からの郵便物など届いた際は代読に努めている。年末には家族や兄妹等 ^a 宛てへ年賀状を作成して頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々の飾りつけや季節の花を飾ったり、絵の得意な職員が似顔絵を描いて掲示している。音や明るさに等に配慮して意心地よく過ごせる空間に努めている。また、時期により食事をとる場所を変えている。寒さを感じる冬は日差しを浴びれるよう窓際へ移動している。	フロアは広く明り取り窓により採光も十分である。また、利用者と職員が一緒に作った季節毎の作品を掲示して四季に配慮するほか、各居室ドア周辺に利用者の似顔絵も掲示してあり目を引いている。対面キッチンから調理する際の音や匂いを感じることができるほか、見守りによる安全確保にもつながっている	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	少人数で座れるソファを設置するなどして利用者同士の空間作りを工夫している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた寝具やタンス等を持参して頂き、テレビ好きな方は居室にテレビを設置している。家族の写真を居室へ飾り、落ち着いた環境で過ごせるように努めている。	電動ベッドとエアコンが備え付けられるほか、寝具やタンス、時計や写真、趣味の編み物セット等、自宅で使用していた馴染みの品を自由に持ち込み居心地よく過ごせるよう配置している	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやお風呂の表示を行い入居者が迷わずに行けるようにしている。トイレの動線には注意し危険のないよう配慮している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない